

沖縄鉄軌道・計画案策定プロセス検討委員会
第2回委員会

議事要旨

- 1 日時：平成27年1月6日（火）10：00～12：00
- 2 場所：県庁11階第1・2会議室
- 3 出席者

(1) 委員

- ◎東京工業大学大学院 総合理工学研究科 教授 屋井 鉄雄
 - 沖縄国際大学 法学部 教授 前津 榮健
 - 沖縄弁護士会 弁護士 玉城 辰彦
 - 東京大学公共政策大学院 特任准教授 松浦 正浩（テレビ電話にて参加）
 - 淑徳大学 経営学部長 廻 洋子
- ※◎委員長、○副委員長

(2) 事務局

- 沖縄県企画部長 謝花 喜一郎
- 沖縄県企画部企画振興統括監 具志堅 清明
- 沖縄県企画部交通政策課長 嘉数 登
- 沖縄県企画部交通政策課公共交通推進室長 真栄里 嘉孝

4 主な議題

- (1) コミュニケーション活動の取組結果について
- (2) 計画プロセスの運営のあり方について
- (3) 「沖縄鉄軌道の計画案検討プロセスと体制のあり方」について
- (4) 今後の予定について

5 議事要旨

- (1) 事務局から議題に沿って説明し、意見交換がなされた。最終的に「沖縄鉄軌道の計画案検討プロセスと体制のあり方」について、委員の了承を得たことにより、県はステップ1を終了しステップ2へ移行する事を判断し、計画案策定プロセス検討委員会はプロセス運営委員会へ移行することが確認された。
- (2) 検討委員会での主な意見は以下のとおり
 - (ア) コミュニケーション活動では、将来、一番利用する若年層の意見収集方法の改善や展示パネルをわかりやすくすることが必要。
 - (イ) 各ステップのプロセスの評価にあたっては、情報提供の適切性や説明の妥当性等が重要。また、意見を収集するだけでなく、意見の主旨を解釈して、ニーズを整理する工程が必要。
 - (ウ) 技術検討委員会の委員は、「都市計画」、「景観」分野から追加選定することも検討することが確認された。
 - (エ) ニュースレターについて、配布を漏れなく行うこと、また、読み手にわかりやすい表現にすることが必要。
 - (オ) 地元紙が国の鉄軌道導入方針として「白紙」と報道したが、県としてのスタンスを早い段階ではっきり示すことが重要。